

平成31年度 学校評価総括表 伊丹市立笹原中学校

学校教育目標		自ら勉学に励み、自ら心身を鍛え、自ら進路を切り開く知・徳・体バランスのとれた人間力ある生徒の育成						
重点目標		(1)受容と共感に基づいた生徒理解を基盤に、規律ある学校生活のもと、確かな学力を育む (2)全教育課程を通して高い道徳性と人権意識を育み、保護者と地域との連携のもとで、ともに支え合う仲間づくりを行う						
項目	重点項目	具体的施策	達成目標	自己評価	成果と課題	改善策	学校関係者評価	
安全・安心な学校（総務部）	教育課程	・学校教育目標の実現に向け、全教員が学校運営に参画する。 ・学校の現状や生徒の実態を踏まえた教育課程を編成する。	・学校行事を充実させるため、事前学習や事後学習の時間を確保する。 ・「笹トレ」や7校時学習の実施により授業時数を確保するとともに、地域と連携した放課後補習や土曜学習等の実施により学力を保障する。	アンケート結果の「A」「B」評価の割合の合計が80%以上になる。	B	・校長の方針のもと、教職員の共通理解を図り、学校教育目標の実現に取り組んだ。その結果、学校や学校行事が楽しいとする生徒アンケートの「A」「B」評価が82.4%、保護者アンケートの「A」「B」評価が87%とどちらも前年度と同程度であり、目標を達成することができた。しかし、校長の教育方針は明確であるという、教員アンケートの結果は72.4%と前年度より6.2%下がっている。今後は学校生活、学校行事等で生徒が達成感を持つように工夫をさらに進めるとともに、さらに向上を目指して、生徒の自主性や主体性を伸ばす取り組みを進めていく。	・「笹トレ」については、問題の改良、取り組み等に工夫を重ね今後も継続する。学年を越えて教え合い、学び合うことで学びを確かなものにするともに、問題が解ける楽しさを味わいながら自尊感情を育てていく。 ・学校行事については、先を見通した計画を立て、1つの行事で完結させるのではなく、次の行事や翌年へつなげる取り組みを行う。 ・行事への積極的な参加に関する生徒アンケートの「A」「B」評価が1.7%下がっているため、子どもが主体的に取り組むことを増やし、達成感が増えるような取り組みが必要である。	・「笹トレ」は笹原中学校の教育での基幹的な位置づけとなっている。3年前から「笹トレ」を実施することにより生徒の学力が向上することが明確となっている。その結果、各教員の自主的な努力や各行事に対する協力などにより生徒の「心の荒れ」を防ぐことになり、学校が極めて安定的な状態となっている。つまり、生徒が学校は「安全で安心な場所」であるとの意識が定着してきているようである。 ・防災訓練を地域との連携で実施することは今後必要。 ・自転車のマナーやスマホの使い方についての指導・講演会は継続し充実させてほしい。 ・学校、学校行事が生徒、保護者とも楽しいの評価が良い。
	危機管理の徹底	・自転車交通安全教室や防災訓練を通して安全に生活する事や自分の命を自分で守ろうとする意識を高める取り組みを行う。 ・災害や犯罪から身を守るすべについて、具体的に学習する場を設ける。	・自転車交通安全教室を発達段階に応じて内容を吟味して実施する。 ・年2回の防災訓練に向けた事前学習の徹底を図り、防災意識の高揚を図る。 ・防災や安全に関する情報を随時活用し、実生活とのつながりを意識させるような学習を企画する。 ・インターネットの安全な利用法や情報モラルについては、生徒の実態を踏まえ、関係機関との協力のもと、適切な内容の講習会を実施する。 ・実態に即した防災マニュアルの見直しと作成を行う。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が80%以上になる。 ・年2回避難訓練を実施する。 ・講話や講習などを年3回以上実施する。	B	・自転車交通安全教室や防災訓練、防災学習を通して、安全に生活しようとする意識が高まった。このことは、生徒のアンケート結果の「A」「B」評価の合計が、90.2%と高い評価を得ていることから分かる。 ・スマホ講演会を行い、インターネットなどの安全な利用方法や情報モラルについての講習会を実施し、実生活につなげて理解を促すことができた。 ・3年生において心肺蘇生やAEDの使用法の講習会を実施した。 ・防災訓練や学習を行うことはできたが、一方で、地域との連携においては課題が残る。いざというときのために、地域と協力して防災に取り組めるようにしていく必要がある。	・自転車交通安全教室を発達段階に応じて継続して行い、自転車に関する知識を身につけさせる。 ・防災意識の高揚を図るために、防災訓練や防災学習の内容の充実を図る。また、防災学習については、中学校の授業の中で活用できる教材を整備していく。 ・防災や安全に関する情報を収集し、実生活とのつながりを意識させた学習を企画する。 ・防災学習や訓練に地域の方にも参加、協力してもらう。 ・防災マニュアルの徹底を教職員全体に通して行う。 ・生徒の実態を踏まえ、スマホの使い方やインターネットなどの安全な利用方法や情報モラルについての講習会を関係機関との協力のもと実施する。	
学力の向上（教育・研究部）	評価・情報システム	・様々な方法で評価資料を収集し、生徒の学力や学習の達成度の評価を適切に行う。 ・デジタル機器を活用し、生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組めるように教材を工夫し、わかりやすい授業に努める。	・生徒、保護者が納得できるような基準を設定し、シラバスで示す。また、評価資料を収集し、生徒の意欲を高める評価に努める。 ・ICTの活用を推進し、その状況が保護者に伝わるよう、授業参観等でアピールしていく。 ・さらなるICT化の推進を目指し、タブレット型端末の活用等を進めていく。	・アンケート結果において「A」「B」評価の割合が90%以上になる。 ・教職員のアンケート結果においては「A」「B」評価の割合が100%になる。	A	・アンケートの結果より、概ね教師は評価資料の収集をしっかりと行うことができたと考えられる。その成果もあり、生徒、保護者共に概ね高い評価を得ることができている。ただし、教職員の「適切な評価」「個人情報の管理」においては100%でなければならない。 ・デジタル機器の使用方法などを研修で学び、授業に積極的に取り入れることことで、高い評価を得ることができている。	・生徒、保護者向けに評価基準をしっかりと提示し、評価方法や評価資料の徹底をはかり、説明責任が果たせるようにする。 ・デジタル機器の活用は継続させながらも、効果的な活用方法の検討を行う。 ・教師のデジタル機器の活用率は高くなってきたので、生徒がデジタル機器を活用できるような取り組みを検討する。	・「全国学力調査」の結果において全国平均を上回るようになってきている。以前の笹原中学校の学力状態と比較すると、これは極めて評価すべき点である。笹原中学校は過去に何度も「学校の荒れ」を経験し、学力は常に全国平均を下回る事態が長く続いていたことを考えると、画期的なことである。 ・「笹トレ」は継続するべき。教員間で、意識についての共通理解を毎年図ってほしい。 ・個人情報の管理は徹底してほしい。 ・授業研究会、事後研修会は継続したうえで、保護者や地域の参加を取り入れて、意見交換してほしい。 ・特別な支援が必要な生徒が増えていくので、特別支援教育の充実をのぞむ。 ・キャリア教育の視点は大切。社会とのつながりを意識した授業を充実させ、「話す力」をつけてほしい。 ・家庭学習の徹底は、今後も課題。保護者への周知が必要である。
	指導方法の工夫改善	生徒の興味・関心を高め、意欲的に学習に取り組めるようにする。教材や指導法などを工夫し、わかりやすい授業づくりに努める。チーム学習・話し合い活動や発表を積極的に授業の中で取り入れ、学びの共同体づくりに努める。	・話し合い学習の班隊形(T字)を全教科共通で行うことを徹底し、子ども達が話しやすい環境づくりを行う。 ・サクセスシートを全学年実施する。 ・置き勉強の実施に伴い、家庭学習の強化のためにサクセスシートを徹底する。授業ノートをを用いたふりかえりを実施することで、家庭学習の意識を高めていく。 ・校内研修の精選をし、ポイントを絞り教員の指導力向上に務める。 ・教職員が校外で研修を受けた場合、受けた職員が校内研修で学んだ内容を伝達する。	・アンケート結果において「A」「B」評価の割合が80%以上になる。 ・全国学力・学習状況調査で全国平均を上回る。	B	・「めあて」を書くことが定着した(98%)。めあての内容を精選するために、研究推進委員会で指導案の検討を行い、教科部会とあわせて内容を深める場を設けることができた。 ・全学年でサクセスシート(ふりかえりシート)を実施(88.2%)することができた。 ・笹トレの継続実施を行うことができた(肯定的評価80.4%)。 ・全国学力調査では、国語・数学・英語とも、ほぼ全国平均と同程度であった。 ・笹トレのねらい、効果が意識から薄れ、形骸化している部分がある。また、今後生徒数によってはクラス数がそろわなくなる可能性が考えられる。そのため、どのように実施していくかを再度検討する必要がある。 ・サクセスシート記入から家庭学習へのつながりができていない。各教科で何をすれば力がつくのか?を明示し、生徒の家庭学習への発展をはたさかける必要がある(教員評価69%)。	・話し合いでの発言について、生徒の実感が低い(64.5%)。話をすればいいというものではないが、自分の考えを持ち発言することの意義を授業を通し、伝えていく。基本的な手法については、笹トレを軸に発展させていく。 ・サクセスシートを用いたふりかえりの実施を継続し、家庭学習へつなげる発展的な取り組みを行う。 ・様々な取り組みがあるが、ねらい・効果を意識しながら、再度行っていることを見直す。 ・90%以上の生徒、保護者が、学習の成果を適切に評価してくれていると肯定的に評価しているが、2年後の新学習指導要領完全実施に伴い評価の観点が変わるため、その研修を行う必要がある。	
	家庭学習の充実	・各教科より進度や理解度に対応した課題を出すことで、家庭学習の習慣化および充実を図る。 ・授業内容の確認や学力向上の成果が見られる課題を作成する。	・家庭内で学習する環境に課題がある場合は、放課後学習や土曜学習などを通して、学校で学習時間を確保し、自主学習の習慣化を図る。 ・生徒が意欲的に取り組み、率先して提出しようと思える課題にするために、提出後の点検をスムーズに行い、次の学習への意欲が高められるような、励みになるコメントや間違いの訂正、疑問点への回答など個別の指導に努める。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が80%以上になる。	B	・生徒、保護者ともに家庭学習に関するアンケート結果は肯定的評価が80%を超えるなど、おおむね好評である。 ・サクセスシートを積極的に工夫して取り組む生徒が増加した。 ・各教科で週末課題や週間課題を設定したり、工夫されたノートを掲示したりするなどの取り組みが好評につながっていると考えられる。 ・教員のアンケート結果では、各教科や各学年で家庭学習の充実に取り組んでいる、という項目は肯定的評価が68.9%にとどまっている。 ・家庭学習の習慣化について各家庭ごとに差が大きい実態と、宿題を家庭ではなく学校で取り組んでいる生徒たちが多いという実態がうかがえる。	・好評価につながっている取り組みを今後も継続しておこなっていく。 ・家庭学習の習慣が身に付いていない生徒を中心に、笹手帳を活用しながら保護者とも連携し、生徒の自主学習力の向上を図る。 ・学級担任と教科担任がこまめに連絡を取り合い、課題未提出者の把握につとめ、課題提出の徹底を図る。 ・各教科で課題を出す際に提出締切を明らかにするとともに、学級の連絡ボードを活用し、徹底を図る。生徒が課題を提出日締切当日に学校で慌てて取り組んでいる様子があれば声をかけし、事前に取り組むよう促す。	
	特別支援教育の推進	・特別支援学級だけでなく、通常学級の生徒に対しても個別の指導計画を作成し、適切なサポート体制を強化する。 ・特別支援教育推進委員会や学年会議などで生徒の情報を共有するとともに日常的に支援員の方とも連携をはかる。	・個別の指導計画の内容を全職員で共通理解し、日々の指導に生かせるように各学年に1部ファイルを作成する。 ・特別支援教育推進委員会であがった情報を学年の担当が学年会議などで学年職員に確実に伝えるようにする。 ・個々のケースにおいてうまくいった支援についての事例を集め共通理解する。	・アンケート結果において、「A」「B」評価の割合が85%以上を維持する。	B	・各学年で話し合い、個別の指導計画を立ててはいるが、常に特性を念頭に置いて配慮できているわけではない。 ・個別の指導計画を立てていない生徒で支援が必要とされる生徒が徐々に増えつつある。 ・特別支援教育推進委員会での内容を各学年や他学年の教師と情報共有して取り組む意識が低くなっている。	・毎月の学年会で、支援の必要な生徒の情報と配慮を把握して、常に変化する生徒の現状に合わせて対応できるようにする。 ・特別支援推進委員会で話し合われた生徒で、特に配慮や支援が必要な生徒は、毎月の職員会議で全職員に周知する。	
読書活動の充実	・利用しやすい図書館づくりを行い、授業で活用することで学力向上を図る。 ・朝読書を活発化させ、活字を読み解く力の育成を図る。	・図書館だよりにより生徒や保護者、図書ボランティアなどによる図書紹介コーナーを引き続き設け、より親しみやすい図書館づくりに役立てる。 ・最新の統計などの新しい資料を整備し、調べ学習に役立てる。	アンケート結果において「A」「B」評価の割合が75%以上を達成したい。	B	・全てのアンケート結果において「A」「B」評価の割合が85%を達成した。 ・図書委員の読み聞かせなどのイベントを充実させた図書館まつりを年2回開催したことで、図書館と読書活動のよいアピール活動になった。 ・図書室の棚が見やすく整理されたことで生徒が読みたい本を探しやすくなった。 ・アンケート結果が生徒は82.2%、保護者は88.3%と高いのに対して、職員のアンケートの評価が86%と昨年より7%減っている。	・図書委員と国語科を中心に図書館利用のマナーについて注意喚起を行う。 ・国語以外の教科にも授業で利用してもらうように呼びかける。 ・授業での図書室の利用が少なくなっているため、資料などを最新のものにして調べ学習に適した第2図書室を目指していく。		

豊かな心・健全な体（生徒指導部）	生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>「笹ナビ」に基づき、教職員が連携して組織的な対応を行う。</li> <li>いじめ防止などのための基本方針に基づき、保護者や関係機関との連携のもと、適正な対応を行う。</li> <li>生徒自ら正しい判断をし、よりよい学校を創り上げていくための、自治の力を育てる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教育方針や指導方針、いじめ基本方針などを教職員が熟知し、深く理解した上で、あらゆる機会を活用して、保護者をはじめ関係者にわかりやすく説明できるように、組織の一員としての自覚をもって職務に当たる。</li> <li>学校のルールなどを、生徒会を中心として見直したり、あるいは新たに作ったりするなどの活動を活性化させる。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒アンケートにおいて、いじめやトラブルへの対応については89.9%（平成30年度は83.2%）と上がっており、高い評価を得ている。保護者のアンケートでは同じ項目において、83.0%（平成30年度は78.5%）となっており、上がっている。迅速かつ丁寧に対応してきたことが成果に繋がっていると考えられる。一方で社会のルールやマナーについての指導をされているという項目に関しては、88.7%（平成30年度は85.8%）とやや上がってはいるが、細かな風紀面においての指導などができていない部分があると見られるので改善が必要である。</li> <li>不登校生徒数については、昨年同時期とほぼ同じ数である。</li> <li>Q-Uについては、学級満足度50%以下の学級があった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒指導の「見える化」を図らなければならない。様々な場面での学校生活のルールや決まりを作成し、教員全員が周知徹底をして、どの教員が対応しても一貫とした指導が行えるようなシステムを構築する。</li> <li>学年だけでなく、学校全体として報告、連絡、相談の徹底を図る。また、保護者へのきめ細やかな連絡を徹底する。</li> <li>生徒会の活性化を図り、生徒の自主性を高める行事や授業づくりを個々の教員が意識する。</li> <li>クラスの生徒の状況を的確に把握し、支援の必要な生徒には個別に対応するとともに、ルールとリレーションのバランスの取れた居心地</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の学力が向上すると、生徒の心が安定的になり、その結果として全てのことが好転するようになる。左記の「成果と課題」についても全ての点において良好な評価が多く見られるようになっている。</li> <li>人権に配慮した教員の指導方法を徹底してほしい。（教員のことばづかい、頭ごなしの指導）</li> <li>スマホの使い方の指導を徹底してほしい。</li> <li>不登校生徒が増える中で、関わりを一層充実させてほしい。</li> </ul>
	進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の将来を親身に考え、ひとりひとりに合った進路実現に向けた指導を行う。</li> <li>正しい情報提供を図り、家庭との連携に努める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>キャリアノートを活用し、自分の特性を見つめ、適切な進路を設計する力を養う。</li> <li>トライやる・ウィークの取り組みを活用し、いろいろな職業があることを気づかせ、社会の一員になる意識付けを行う。</li> <li>教育相談や三者懇談の時間などを生かして、生徒だけでなく保護者との対話時間も確保する。</li> <li>1年生2年生は毎学期、定期的に進路学習を行い将来への見通しと進路に向けての意識付けを行い、希望を持たせる取り組みをする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>進路指導の項目については、生徒のアンケートでは91.7%（前年度90.5%）、特に保護者アンケートでは93.0%（前年度79.2%）と前年度を大幅に上回り、高い評価を得ることができた。このことから、学校の取り組みが生徒や保護者の一定の理解を得ることができたと考えられる。しかしながら、学年が下がるほど進路に対するイメージがつかみにくく意識が低くなる傾向がある感否めない。そのため、三者懇談会や教育相談などの機会を生かして、個に応じた進路についての対話時間を引き続き確保していく必要がある。また、生徒だけでなく保護者にも進路情報を積極的に伝える努力を今後も行っていく必要がある。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校での進路情報を家庭まで確実に届ける。そのためにプリントに保護者サイン欄をつくるなどの工夫を今後も継続していく。</li> <li>学校における進路の取り組み内容や関連する活動を計画的に推進するとともに、保護者にも学年通信などを活用し、引き続き、積極的に情報を発信する意識を持って伝えていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の生活習慣の改善には、家庭の協力が極めて重要である。また、学校からの情報発信や学校関係者の活動が大きな要となる。</li> <li>給食指導において、残食はないにこしたことはないが、一方で、こだわりすぎないことも必要。</li> </ul>
	健康な体づくり	<ul style="list-style-type: none"> <li>心の健康の保持増進のため、体力の向上を図る。</li> <li>食育や健康指導を通して、心身ともに、健康な体づくりを行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>「自分の健康は自分で守る」という意識を高め、実行力を育むことを目指し、保体委員会をさらに活性化し、全校生徒に健康に関する情報を発信する機会を増やす。</li> <li>病気や怪我の予防、食育など、健康増進に関する情報を掲示板や保健だよりなどで、引き続き広報する。</li> <li>生徒への個別指導や保護者連絡をとりながら健康管理をすすめるなどの連携をとり、健康増進を目指した取り組みを推進する。</li> <li>給食について、衛生面の指導、アレルギー対応を行う。</li> <li>体力の向上につながる取り組みをする。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>アンケート結果では、全ての項目で85%を超えた。</li> <li>保健や家庭科の授業を通して、病気の予防や健康な体づくりなどの健康増進について生徒に啓発した。また、掲示板や保健だよりを通して、定期的に健康に関する情報を発信した。</li> <li>保体委員会では、季節や学校行事などに合わせて心身の健康の保持増進を図る取り組みについて協議して実践した。</li> <li>安心安全な給食実施に向けて、個人のアレルギー対応プランを作成し、家庭と学校が連携しながら、毎月のアレルギー対応を確認した。衛生面での指導の徹底や備品の充実について、今後も継続して進める。</li> <li>残食はほとんどなく給食を食べることができ、毎日の献立を掲示することで給食に対する意識が高まった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>授業を通して、健康に関する知識を習得するとともに、特に、スマホを使う時間や朝食を食べることなど、生活習慣について、学校と家庭が連携して健康管理について取り組みを行う。</li> <li>自身の健康意識を高め、生徒の主体的な実行力を育てるため、委員会活動を活性化させる。</li> <li>引き続き、掲示板、保健だよりなどを活用して、病気やけがの予防をはじめとする健康に関する情報を発信する。</li> <li>学校給食を活用した食育に積極的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>生徒の生活習慣の改善には、家庭の協力が極めて重要である。また、学校からの情報発信や学校関係者の活動が大きな要となる。</li> <li>給食指導において、残食はないにこしたことはないが、一方で、こだわりすぎないことも必要。</li> </ul>
開かれ信頼される学校（管理部門・渉外部）	開かれた信頼される学校づくり（地域との連携）	<ul style="list-style-type: none"> <li>教職員の共通理解のもと、学校の教育方針や教育活動の周知徹底を図り、保護者や生徒の理解を深め、保護者や関係機関との連携のもと、組織的な対応を行う。</li> <li>オープンスクールや参観日、行事などの機会を活用し、広く学校の教育活動を公開する。</li> <li>地域の行事やパトロールなどに積極的に参加するとともに、教職員と生徒、地域ボランティア等との連携により、ボランティア活動を推進する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校の教育方針等を教職員が熟知し、保護者をはじめ関係者にわかりやすく説明できるように、組織の一員としての自覚をもって職務にあたる。</li> <li>学校からの配布物が確実に各家庭に届き、情報が十分に伝わるように、終礼で必ず配布物の確認を行う。また、クリアファイルやクリップなどを活用し、保護者にその日のうちに必ず渡すことの習慣化を図る。</li> <li>個人情報に配慮しながら、各種行事や講演会、部活動など、学校の様子がより具体的にわかるようHPの更新を行う。</li> <li>学期に1回オープンスクールを実施し、授業参観とあわせて保護者や地域の方々により参加しやすい講演会や説明会などを企画する。</li> <li>PTAやコミュニティスクールを中心に、学校支援ボランティアへの参加を促し、保護者や地域の方々との連携をすすめる。</li> <li>生徒会を中心として、地域ボランティアの活性化を図る。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>行事等の案内を1ヶ月前には配布するとともに、ミマモルメのメール配信の加入率は3年生がほぼ100%加入し、1・2年生も90%以上加入した。</li> <li>オープンスクール、研修会等、昨年よりも保護者の参加が増加した。</li> <li>地域のまつりやもちつき大会、公園清掃、校区内の幼稚園や小学校の行事への協力など、部活動や生徒会を中心にボランティア活動に参加し、教職員とともに生徒が地域の一員として活躍する場を設けることができた。</li> <li>地域の行事に参加している項目が、昨年より0.8ポイント増加し、63.8%となった。</li> <li>地域の方からも教師や生徒のボランティア活動の貢献を評価してもらえた。</li> <li>ボランティア活動の活性化に伴い、教職員の負担が増えてきた。</li> <li>保護者による学校支援ボランティア（図書、園芸、土曜学習）の活動が定着し、その内容もより充実してきた。</li> <li>学校運営協議会の内容を教職員に周知し、改善に生かすことができた。</li> <li>学校だよりや学年通信等、月1回以上の定期的な発行・配布、写真や生徒・保護者の感想等を多く掲載するなど工夫できた。</li> <li>CSディレクターの配置により、毎月5～6回以上のHPの更新及び内容の充実を十分に図ることができた。</li> <li>生徒会役員や部活動生徒の参加意識や充実感にともない、一般生徒の参加の機会も安定したことから、生徒は0.8ポイント向上、保護者は昨年と同じ86.1%の評価であった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>学校だよりや学年だよりで学校のことがよくわかるという生徒の割合が昨年87.5%だったのが、今年度は91%に伸びた。昨年度の目標である90%以上を達成したので、今後も継続していきたい。</li> <li>学校の教育方針等を教職員が熟知し、引き続きあらゆる機会を活用して、保護者をはじめ関係者にわかりやすく説明していく。</li> <li>これまでの地域へのボランティア活動を引き続き推進する。</li> <li>参加型地域学習などの企画を、生徒会中心に行う。（笹フェス継続）</li> <li>教職員の負担軽減のため、地域からの依頼事項を考慮していく。</li> <li>個人情報に配慮しながら、各種行事や講演会、部活動など、学校の様子がより具体的にわかるようタイムリーにHPの更新を行う。</li> <li>HPの更新を毎月5～6回以上は行っていく。</li> <li>学校運営協議会委員やCSディレクターを通じて学校の情報を、地域や保護者へHPやコミュニティスクールだよりなどを通じて積極的に発信していく。</li> <li>ボランティアマスターに認定する生徒を30人まで増やすという昨年度の目標が達成され32人となった。今後も継続していきたい。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域へのボランティア活動等は学校の取り組みが地域内に明確に示すことができるため、継続してほしい。</li> <li>保護者による学校支援ボランティア（図書、園芸、土曜学習）の活動が定着したことはとても重要であり、今後も安定的な継続が望まれる。</li> <li>CSディレクターによる毎月5～6回以上のHPの更新は学校の情報開示につながりこれも安定的な継続が望まれる。</li> <li>学校運営協議会の提言にも耳を傾けてくれていることも評価できる。</li> <li>オープンスクールは継続して、より多くの人に学校をみてもらうべき。</li> <li>土曜学習は継続した上で、今後は学習内容の充実ができるとうい。</li> <li>地域との連携は、サポーター一制度や笹フェスなど充実している。</li> <li>管理職以外の教員との情報交換、意見交換の場がほしい。</li> </ul>
	教育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> <li>清掃活動を活性化し、教育環境を整える。</li> <li>安全点検を徹底し、安全・安心な学校づくりを進める。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美化委員会を中心として清掃用具の整備を行う。</li> <li>全員清掃へ向けての点検活動を充実させる。</li> <li>安全点検を実施するための時間を確保する。</li> <li>「もくもく清掃」に取り組む。</li> <li>大規模改修により、学校環境が改善され、使いやすい施設になった。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>前年度と同じく、大規模改修により校舎が綺麗になった影響もあり、生徒達が綺麗に施設や用具を使用する意識が高まり、アンケートでも生徒・保護者ともに、90%以上が良い評価をつけた。</li> <li>「もくもく清掃」が定着し、静かに行うことができています。</li> <li>安全点検で、係りの所属外の学年への声かけが遅くなったり、一方通行の声かけになることもあり、徹底できていなかった。</li> <li>清掃用具箱の中の掃除用具チェックが月1回が行われなかった。大清掃などがある際に限られていた。</li> <li>美化委員や、生徒ボランティア、部活動などで朝の掃除や落ち葉拾い、公園の落ち葉拾いなどを行った。その活動が評価されたのか、教師からの評価が大きく上がった。</li> <li>清掃状況の点検は、10月に1週間行ったがそれっきりだった。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>美化委員会を中心として、委員会の後に掃除用具の点検活動などに取り組む。</li> <li>月1回の安全点検を呼びかけ、教員の点検漏れがないかを分かりやすくするために、紙でのチェックからデータ入力へと変更したので、係りから各学年への遅かったデータ入力の声かけを徹底する。</li> <li>「もくもく清掃」が新入生にも定着し、文化となるように美化委員会を中心に取り組む。</li> <li>清掃用具の収納の仕方、ほうきのはくほうを上に向けてするなど、収納例を写真でわかりやすくし、ラミネートした各掃除場所に配布。掃除用具入れの開いた扉の内側に掲示する。</li> <li>月1回の掃除用具の点検を確実にを行う。</li> <li>朝の清掃活動や落ち葉拾いはボランティアや部活動と連携して続けていく。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>地域との連携は、サポーター一制度や笹フェスなど充実している。</li> <li>管理職以外の教員との情報交換、意見交換の場がほしい。</li> </ul>

**学校関係者評価総括**  
「笹トレ」の様々な分野への影響が極めて大きい。「笹トレ」実施は教職員全体の結束状況が明確に出ており、今後も継続できるように努力を続けてほしい。教職員全体が共通理解(なぜ「笹トレ」を導入したのか)を深めておくことが上記の様々な良好な成果につながっているように思われる。「笹トレ」の教育への波及効果を十分に理解して教育実践を続けてほしい。また、「生徒ファースト」にもとづいた様々な活動により、生徒の「自己肯定感」は向上していると思われるので、今後も継続してほしい。

**次年度に向けた重点的な改善点**  
現在、学校は安定的な状態となっている。このような状態の時ほど、教職員間に「心の隙」が生じやすい。つまり、「安定しているから、ここまでしなくて良いのではないか」等の考え方が出やすくなる。そして、このような教職員間の「考え方のずれ」が、生徒達に敏感にキャッチされやすくなる。結果として、過去に何度も経験してきた「学校の荒れ」が再発しやすくなる。今後は、「学校の荒れ」の防止に関する共通理解(話し合い)を日常的に実施しておくことが必要である。また、次年度以降も「生徒ファースト」「自立」という理想は守ってほしいが、保護者への周知・理解の徹底が必要。さらに、「働き方改革」とのバランスをとり、地域人材やCS委員からのつながりがある人材をうまく活用してほしい。